

# 遠野町以外でも 問題ある風車計画続々！

# 遠野風力(アカシア・ リニューアブルズ(株))方法書住民説明会



## マスコミシヤットアウト 事業者への不信感増幅

テレビ取材どころか一切のマスコミ拒否  
住民の録音・撮影・録画も禁止！

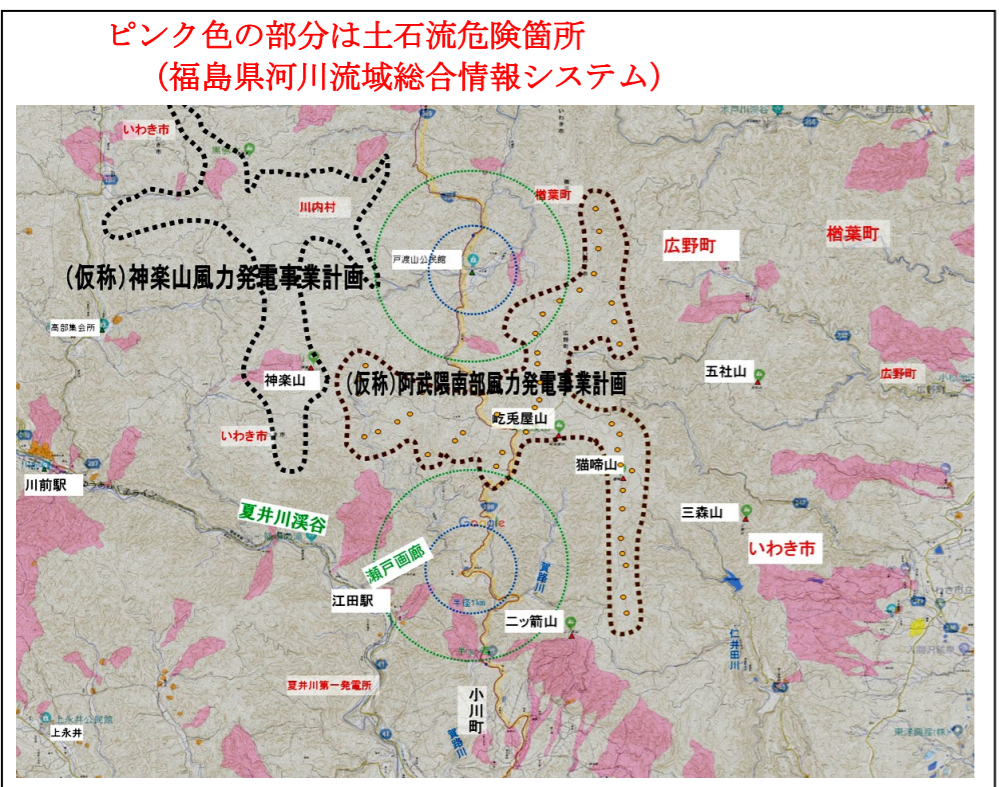
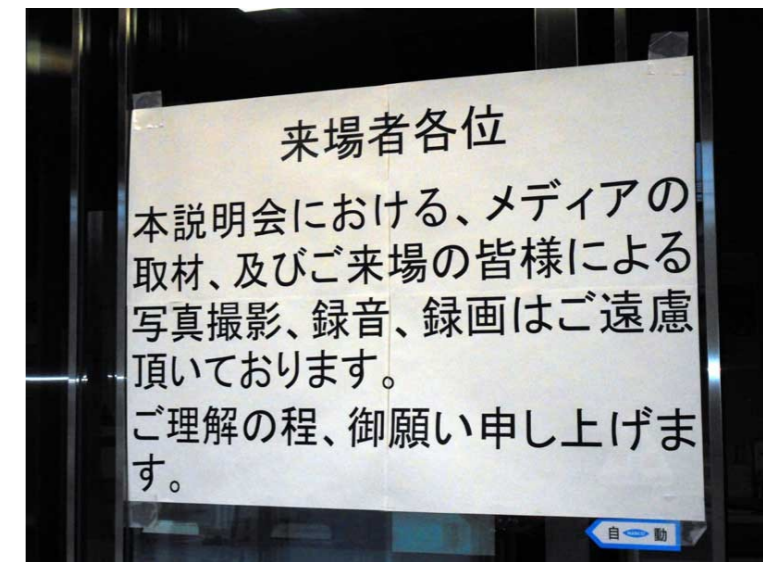
7月3日に入遠野公民館で行なわれたやり直しの住民説明会は、住民との約束を破って、テレビ局の取材はおろか、一切のマスコミ取材も参加住民の写真撮影・録音・録画を禁止するという暴挙に出ました。理由は親会社の意向ということで、この会社が親会社（マッコリーキャピタル）のいいなりということがよく解りました。

約束違反に対して参加者からは手厳しい批判が噴出した後、方法書や事業に対する質疑が行われました。ほんらい「環境影響評価方法書」は環境影響評価書の調査方法を明らかにするためのものですが、住民が一番心配している土砂災害の危険に関しては全く入っておらず、生活用水として使っている山水の汚濁も工事中だけで、しかも入遠野川の敷地点だけというお粗末さ。事業者は別途行うとされていますが、最も懸念されるのが調査項目に入っていないのでは話にならないと、住民からは不満の声が続出しました。

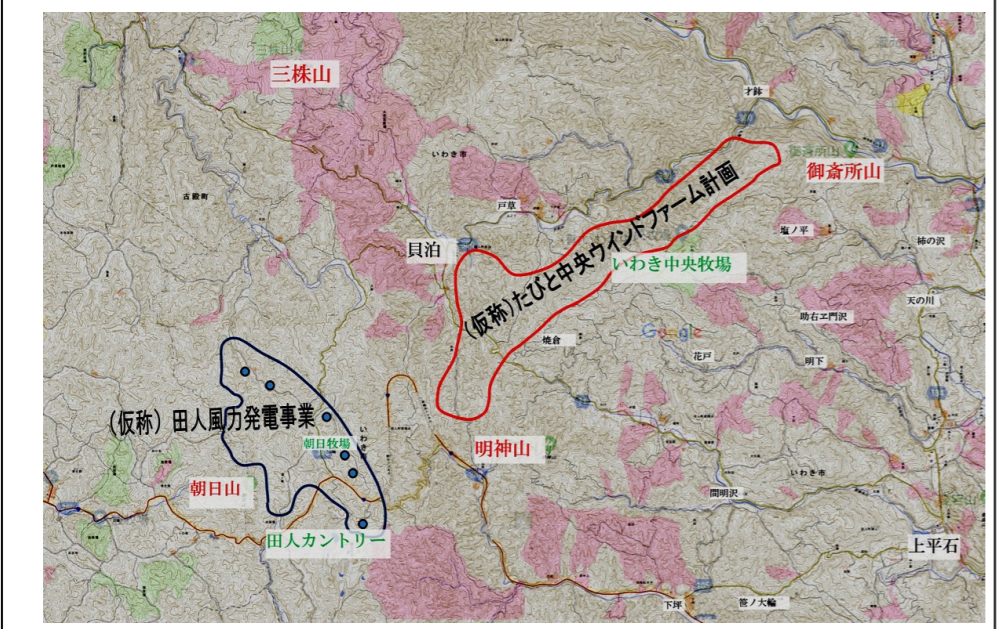
## 参加者の多くは計画への懸念と撤回を主張

今回の説明会では、やはり土砂災害への懸念が最も多く出されましたが、それに対して事業者は、日本で最高の技術で検討などという非現実的な回答しか言えず、事実上ほとんど検討されていないことが露呈しました。また、事業者の企業情報に関して、住民からの質問に対して、資本金などホームページで見られるようにすると確約したものの、9月1日現在、いまだにそうした情報は会社概要に載せられていません。これも

会社の不誠実さの表れではないでしょうか。また、参加者からは住民説明会の内容が市長や知事、所管大臣に伝えられないのかという質問があり、これは議事録を作って関係機関に送付されることが確約されましたが、区長会によると、事業者によって作られたものは全く不十分な内容で、区長会によって詳細なものが作り直されました。



小川町を中心とした「（仮称）阿武隈南部風力発電事業」と川前に広がる「（仮称）神楽山風力発電事業」。合わせてなんと最大66基というとんでもない数の風車が建つ！



現在「計画段階環境配慮書」が縦覧期間中の「（仮称）たびと中央ウィンドファーム」は計画地が集落に囲まれ、1km以内に人家が多数というとんでもない計画。

遠野町の環境を考える友の会

連絡先: 東山広幸(入遠野)090-8258-1181

Facebookアドレス: [www.facebook.com/tohnomachikankyo/](http://www.facebook.com/tohnomachikankyo/)

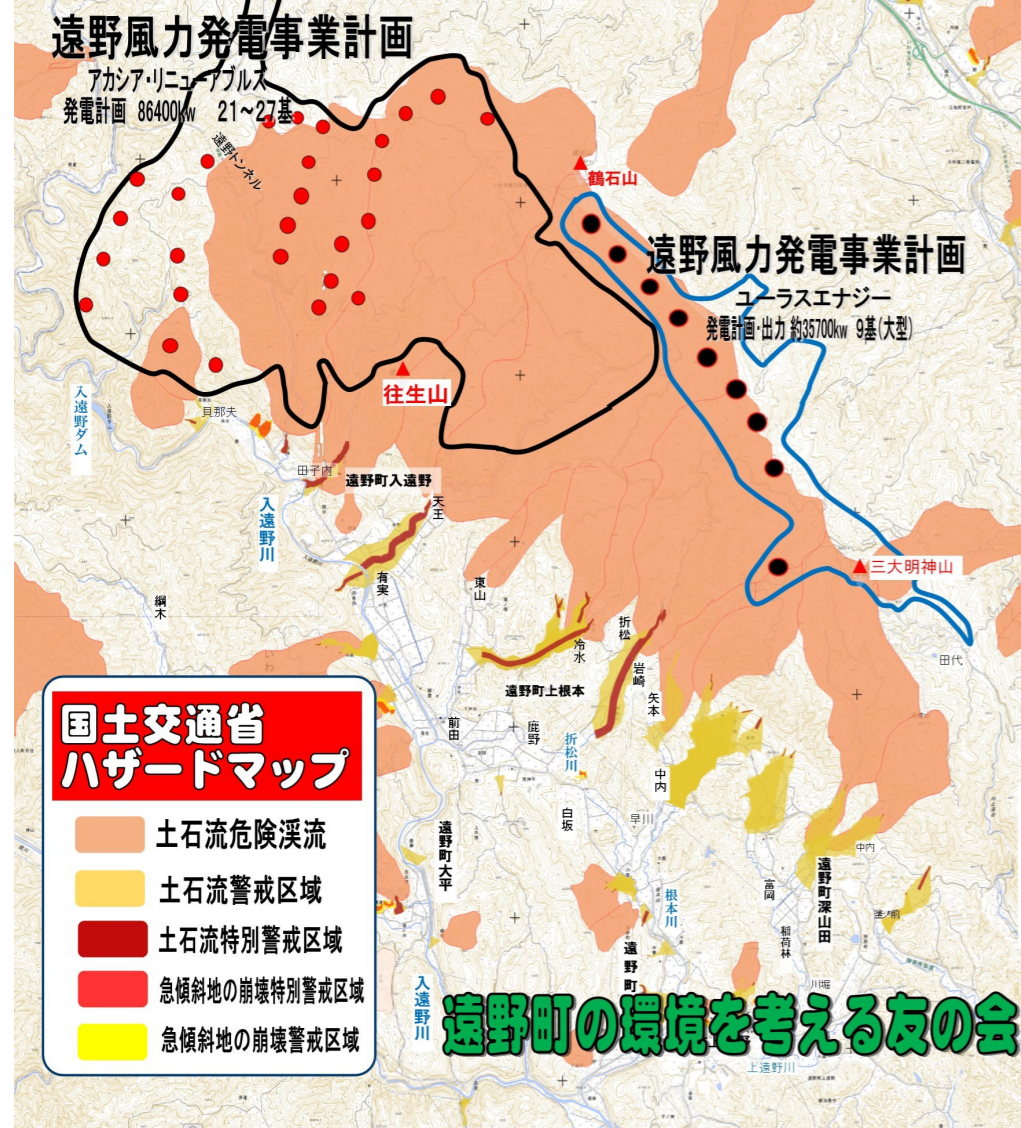
当会の活動は、賛同いただける方の寄付で成り立っています。よろしくご協力お願いします。



# 三大明神風力発電事業（ユーラス）に問題はないのか？

土石流の危険性広範囲に 生活用水の影響も多くの世帯に……

**土石流の危険を増す  
風力発電計画は中止を!**



ポスターを作りました。現在貼らせてくれる土地を探しています。道路沿いで張らせてくださる方はぜひご連絡ください。

三大明神風力発電事業の計画予定地を歩いてきた住民によると、現場はもともと杉山だったのが、皆伐で地形がむき出しになり、砂の上に巨石が転がる極めて危険な状態であるということです（右の写真）。現在伐採費用を国で肩代わりするという補助金が出ている関係で、山の多くの場所が皆伐され、土砂災害の危険が増しています。これでさらに大規模な工事が尾根筋で行われたらどうなるか。素

人目にも明らかです。もともと壊変してはいけない土地なのです。

ユーラスエナジーでは準備書の段階では2100kw級17基だったものを4200kw級9基に計画変更しています。これにより最近接住宅までの距離は1.7kmから約2kmに少しだけ遠くなりましたが、代わりに規模が大きくなったので、影響が小さくなったとはとてもいえません。

「(仮称)三大明神風力発電事業」の事業計画予定地は、危険極まりない土地



三大明神風力発電事業の風車計画地は、砂地の上に巨石がゴロゴロ（鶴石山付近）

後から計画が持ち上がった「(仮称)遠野風力発電事業」(アカシア・リニューアブルズ株)の計画や会社の対応があまりにひどいので、「それに比べれば」「(仮称)三大明神風力発電事業」(ユーラスエナジー)の方が、会社の信頼性も対応もずっとマシなので、こちらの事業は進めていいのでは？」といった意見があります。果たしてそうでしょうか？

「三大明神風力発電事業」は事業計画の範囲が深山田から上根本・入遠野のほぼ全域にかけての尾根筋に広がっています。つまり、この事業で土砂災害の危険が増す地域は、「遠野風力」に比べてはるかに広範囲に渡ることになります。また、この地域の表流水や地下水を水源としている世帯もはるかに多くの世帯にのぼります。風車の数を減らしても、巨大車両が通る搬入路を作るための地形変化は膨大です。

しかも、遠野風力の計画同様、三大明神の計画も土石流の問題は、環境影響評価の項目に入れられず、水の汚濁についても工事期間のみの評価となり、極めて不十分です。

一番問題とすべきは、会社の資本金や信頼性ではなく、住民生活に被害が出る可能性ではないでしょうか。何かあったとき、住民側も理解を示していたとされては責任を問いくくになります。危険が増大する可能性がある限り認めるべきではないと思います。

問題とすべきは、会社の実績や規模ではなく、住民にどう影響するかだ!